

長与再発見!

道ノ尾自治会の活動をご紹介します

「門松づくり」



12月25日、午前9時から道の尾防災センター玄関用の「門松作り」を行いました。

自治会内で伐採した孟宗竹を長さ1.9m、1.7m、1.5mに各2本ずつ切り、先端を斜めにカットして節が笑顔の口に見えるようにしました。一方では、土台のドラム缶を覆うための竹を竹割器で割り、笹の葉を入れる竹筒を切る作業。ドラム缶に竹を立て、方向を整えてから砂を投入して安定させました。若松、梅、南天、ツルシバを挿していき、菊の花は根元に。最後にドラム缶を覆う竹は荒縄で巻き結び完成しました。男性18人が参加し、電動のこぎり、電動カンナなどの道具も持ち寄って作業を進めてくれました。立派な門松が完成後、婦人部が用意した昼食を食べながら、歓談しました。

「鬼火焚き」



1月7日、道ノ尾グラウンドで鬼火焚きを行い1年間の無病息災と家内安全を祈りました。午前9時から、長さ5mの孟宗竹で櫓（やぐら）を組立て作業を行い、12時過ぎに完成しました。各家庭から持ち寄った門松やしめ縄などの正月飾りを櫓に入れ、子どもたちにより点火されました。今年は道ノ尾保育園の園児たちも参加し、150人くらいの来場がありました。竹が勢いよく燃え上がり、音を立てて破裂すると、皆で「鬼（おん）の骨!」と叫んで悪霊を追い払いました。婦人部が用意したぜんざいやお酒が振る舞われ、持参した正月のお餅や芋を残り火で焼いて食べる姿も見られました。消防団第6分団の方々が消火の手伝いと確認にきてくださり無事行事が終了しました。住民同士の絆も強まり、充実した楽しい日を過ごしました。

道ノ尾自治会 会長 丸山 一郎